



ASIA PACIFIC
TRANSGENDER
NETWORK



セブン・アライアンス声明に賛同を： アジア太平洋地域の市民社会ネットワークによる警告： エイズ終結に向けた闘いを脅かす UNAIDS 解体提案

私たちはアジア太平洋地域の7つのコミュニティネットワークの代表として、その連合体であるセブン・アライアンスの名のもとに極めて緊急かつ深刻な懸念を抱きつつ、この書簡をしたため署名しました。国連事務総長が公表した UN80 イニシアティブ報告書には、UNAIDS が 2026 年末までに「落日」を迎え、その使命をより広範な国連の枠組みに吸収することを提案する勧告が含まれているからです。

時期に関しても、方法も、これでは完全に誤った対応になってしまう。私たちはそう考えています。HIV 対策はいま危機の真ただ中にあります。資金は大幅に削減され、新規 HIV 感染とエイズ関連死亡の拡大リスクが高まり、しかも何百万もの人が治療にも予防にもアクセスできない状況に置かれてしまうのです。いま UNAIDS が閉鎖に向かえば、2030 年までのエイズ終結は困難です。持続可能な開発目標（SDGs）の達成も危うくなります。

UNAIDS は世界が HIV 対策を進めるうえで中心的役割を果たしてきました。資金を確保し、国連機関の活動を調整し、各国政府に説明責任を果たすことを求め、そして最も影響を受けてきたコミュニティが政策の意思決定プロセスに参加できるようにしてきたのです。UNAIDS が果たしてきた使命、およびコミュニティ主導を推進する役割をより広範な国連の枠組みに解消してしまえば、再現など到底できません。

アジア太平洋地域はいまなお、重大な岐路に立っています。2024 年現在、域内で HIV 陽性者人口は 690 万人に達し、年間の新規 HIV 感染者数は 30 万人、エイズ関連死者数は 15 万人に達すると推定されています。HIV に新たに感染する人の 8 割はキーポピュレーションの人たちであり、若い世代の感染が増大しているのです。流行は域内の 9 カ国で拡大を続けており、健康安全保障の脅威となっています。UNAIDS がいま弱体化してしまえば、脆弱な基盤の上で何とか成り立っていた成果が覆され、最も影響を受けている人たちの声も封じ込められてしまう恐れがあります。

私たちはこの声明に賛同することをアジア太平洋地域の市民社会とコミュニティ組織に呼びかけています。私たちの声が一つになれば、この危機の最中に UNAIDS を解体してはならないことを各国政府や国連の指導者に示せるのです。

声明

セブン・アライアンス声明に賛同を：アジア太平洋地域の市民社会ネットワークによる警告：エイズ終結に向けた闘いを脅かす UNAIDS 閉鎖提案

アジア太平洋地域の7つのコミュニティネットワークによる連合体セブン・アライアンスは、国連事務総長が UN80 イニシアティブ報告書で、2026 年末までに UNAIDS は「落日」を迎え、その使命をより広範な国連の枠組みに吸収するという提案がなされたことに緊急かつ深刻な懸念を表明します。HIV 対策は停滞のリスクを抱えており、なかでも大きな影響を受けているコミュニティが過重な負担を強いられてきたアジア太平洋地域にとっては、まさに重大な局面でこうした変化が進められようとしているのです。

UNAIDS は、世界の HIV 対策を主導し、共同スポンサーである国連機関の活動の調整に当たり、資金を確保し、各国政府が説明責任を果たせるよう尽力してきました。HIV 陽性者と HIV に大きな影響を受けている人たちが、自らの生活に影響を与える政策の策定に関して発言権を確保できるようにしてきたことは特に重要です。NGO 代表団を通じ、コミュニティの代表が正式に理事会に参加できる唯一の国連機関でもあります。共同プログラムの将来を決定するには、私たちの声が反映されなければなりません。

アジア太平洋地域におけるこれまでの成果は、実は脆弱な基盤の上に成り立ってきました。すぐに消えてしまう恐れがあることは数字が物語っています。2024 年現在、この地域の HIV 陽性者人口は約 690 万人に達しています。年間の新規 HIV 感染者数は推定 30 万人、エイズ関連の年間死者数は推定 15 万人です。新規感染者数は 2010 年当時と比べても 17%の減少にとどまっており、世界平均の 40%減には遠く及ばず、2030 年ターゲット達成に必要な基準にも到底、届きません。新規感染の 8 割はキーポピュレーションの人たちで占められています。いくつかの国では新規感染者の約半数が若者です。9 カ国（アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、フィジー、ラオス、パプアニューギニア、フィリピン、スリランカ、東ティモール）で流行が拡大しており、地域の健康安全保障が危険にさらされていることは特に憂慮しなければなりません。

UNAIDS のリーダーシップがなくなれば、治療の普及や予防サービス、政策改革の実現を促す勢いは弱まり、停滞や後退の深刻なリスクを招くことになります。このままではキーポピュレーションや若者、女性といった人たちが、とりわけ犯罪者として扱われたり、社会から排除されたりしやすい人口集団を含め、HIV の流行に最も大きな影響を受けているコミュニティの声を封じ込められてしまうことにもなるのです。

UNAIDS は、アジア太平洋地域で国レベルおよび地域レベルの対応がコミュニティの視点を確実に反映できるようにしてきました。その役割が失われたり、弱体化したりすることは、HIV の流行がもたらす影響を不均衡なかたちで受けてきた人たちが、自らの生存と健康に直接影響を及ぼす決定に対し、それぞれの主張を反映させ得る能力を著しく制限することになります。

いま UNAIDS の解体を進めることは、人権と平等、そして「誰一人取り残さない」という原則に対し、国際社会が果たすべき約束を違え、信頼を大きく損なうことになるのです。この点は最後に強調しておきたいアジア太平洋地域では、差別とスティグマ、抑圧的な法律によって、予防、検査、治療、そしてケアの提供に不可欠なアクセスがいまなお阻害されています。そうした地域において、UNAIDS は、コミュニティが制度的障壁に立ち向かい、包摂的で人権を重視したアプローチを推進するための支えになってきたのです。

セブン・アライアンスは、加盟国、ドナー、および国連の指導者に対し、以下の緊急要請を行います。

1. UNAIDS の解体を促すいかなる措置も拒否し、UNAIDS が確固たる権限を有する独立した機関であり続けられるようにする。
2. 予防、治療、ケアにおける現在のギャップを埋め、キーポピュレーションや若者を含むコミュニティ主導の対応を支援する持続可能な資金を確保する。
3. HIV 陽性者、キーポピュレーションの人たち、若者、女性・女兒、その他の社会的に弱い立場の人たちのグループが意思決定に継続的に参加できるようにすることを通して、HIV 対策におけるコミュニティのリーダーシップを保持し、強化していく。

HIV 対策におけるコミュニティのリーダーシップ、ジェンダー平等、人権、そして信頼できるデータの維持を任務とする唯一の国連機関に対する解体提案は、人命に直接的な脅威をもたらすものです。明確な代替案と確固とした安全措置が講じられない限り、こうした決定は、データシステムや政策決定のプロセスにコミュニティの実情を反映させる機会を消し去り、HIV の影響を最も大きく受けている人たちや HIV 陽性者の声を事実上封じ込めてしまうおそれがあります。

アジア太平洋地域の HIV 対策は岐路に立っています。UNAIDS を弱体化し、解体しようとする動きは、数十年にわたって何とか積み上げてきた成果を台無しにし、何百万という人の命を危機に追い込むものです。UNAIDS を守り、エイズ終結の約束を再確認するために、国際社会は直ちに行動しなければなりません。

(仮訳：公益財団法人エイズ予防財団)